

秋田工業高等専門学校校長の高橋雅之です。式辞を申し上げます。

新入生のみなさん 入学おめでとう。

秋田工業高等専門学校は、みなさんを心から歓迎します。

高等専門学校＝高専は、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした5年制の高等教育機関です。高専の制度は昭和36年に制定され、我が秋田高専は昭和39年に秋田の皆さんのご尽力もあって当地に設立されました。

我が国は、第二次世界大戦後の教育改革で、ヨーロッパから取り入れた複線型の教育制度を改めて、6334制と呼ばれるアメリカ式の単線型の教育制度を導入しました。

高等専門学校は、単線型の教育制度の例外として制度が設けられ、諸先輩の努力もあって、理論と実践をあわせて学び、学理に裏付けられた技術を身につけた技術者の養成機関として、その独自の教育は高い評価を獲得するに至っています。

秋田高専は、本年創立60周年を迎えますが、地元の方々の協力も得ながら、実習工場、学生寮、更には地域共同テクノセンターといった充実した施設・設備が整えられるとともに、研究者としての実力を備えた教員が配置され、今日まで多くの人材を輩出してきました。

秋田高専の教育の基本理念は、「自立 挑戦 創造」です。

まず、高専生は「生徒」ではなく「学生」です。高専は高等教育機関であり、大学の仲間ですから、新入生の皆さんは、中学を卒業して一足飛びに大学に入学したようなものです。

ですから、皆さんが高専で最初に取り組まなければならない課題は“自立”です。勉強においても、生活においても、自分から取り組む、自分でやってみる、という自立への努力が求められます。

中学を卒業して入学する新入生が環境の変化に戸惑わないように、確実に高専生活をスタートできるように、秋田高専では4つの専門に分かれるのは2年生からとしています。まず1年生の段階で高専生としての足場を固めてもらいたいと思います。

次に「挑戦」です。

秋田高専の大きな特徴は、学生を海外に送り出すことに力を入れているところです。

「グローバルエンジニア」＝世界のどこに出しても恥ずかしくない技術者、の育成が秋田高専の目標です。

考え方として、全員が在学中に1回は海外研修に行ってみよう、ということにしています。

海外研修は、修学旅行のように、皆で揃って同じところに行くというものではありません。学生それぞれが目的を持って、自分の進路をイメージして、学校が用意した研修メニューの中からどんな研修に行くのかを決めます。

そして、5年の後期にはカリキュラムに余裕を作っていますから、最大で5ヶ月までは日本を離れて留学ができるようになっています。

海外に行くとなると、英語のことが気になるかもしれません。英語の力は、就職するにしても進学するにしても必要です。秋田高専では、授業で「使える英語」を徹底しています。英語力の目安は TOEIC を用いていて、TOEIC500 点と TOEIC650 点の 2 つの目安をもって勉強していくことにしています。

TOEIC500 点は、就職して当面の間は困らない英語の力の目安です。高専を卒業すると、企業は即戦力としての力を期待しますから、すぐに海外とのビジネスが待っています。第一歩でつまづかないだけの力は英語力も含め高専で身につけておく必要があります。

TOEIC650 点は、高専卒業後に大学に進むために求められる英語力の目安です。秋田高専から大学に進む場合は、秋田高専からの推薦という形を取る学生がほとんどですが、TOEIC650 点があれば、大学側でも高く評価してくれます。

秋田高専が英語に力を入れるのは、就職するにしても進学するにしても、英語が重要な武器になるからです。特に企業の方々からは、英語の必要性を強く指摘されています。

英語はあくまでも一例です。秋田高専は、皆さんが卒業した後のことを考えて、技術者として必要な力を身に付けてもらえるように必要なサポートをします。様々な研修の機会を用意します。ただし、学年みんなで同じ目標を目指して勉強するという考え方はとりません。それぞれの学生がそれぞれの目標を定めて勉強を進めてもらいます。

身につけるべき技術の基礎や実験・実習の技能、頭に叩き込んでおかなければならない科学の原理原則はあります。しかし、そうした基礎を身につけた上で、自分で考えて研究を進めていくのが高専生に求められるところです。

専門の 4 つの系に分かれて、学生は大学のように研究室に所属して指導教員と一緒にあって実際に研究をします。企業の方との共同研究の場合もあれば、行政と一緒にあって研究をしている研究室もあります。実践的研究です。そして、高専生活の最後に、5 年間の集大成として卒業研究をまとめます。

高専の教育目標は高いです。

では秋田高専が詰め込み教育をするところだと思ったら大間違いです。秋田高専では土曜日に授業はありませんし、入学してすぐに気がつくと思いますが、学生を放課後遅くまで学校に縛り付けておくこともしていません。

その余裕の時間を使って、学生が自分で自分の課題に取り組む。どんどん先に進むことも OK ですが、自分の力で足りないときは仲間や先輩、教員の助けを借りて弱点を補強する。

新入生の皆さんには、5 年間の高専生活を無駄にしてほしくない。スマホに時間を取られているなら、それは見直しましょう。

何度も繰り返しますが、勉強は、それぞれの学生の目的に応じて進める。難しい、わからない、できない、を決して恥ずかしいことと思わないこと。いくらでも学校がサポートします。壁にぶつかって挑戦しないことこそ恥ずかしいことです。結果は、みなさんのやる気・やり方しだいなのです。

先を急ぐことなく、まずは足場を固めてください。学習面で心配なことがあれば、学修支援室がサポートします。生活面をはじめとした悩みは、担任教員でもいいし学生相談室の専門家も相談に乗ります。遠慮なく相談してください。悩みを一人で抱え込まないこと。力を合わせて解決していきましょう。もちろん、保護者の皆さまとの連絡も十分に取りながら進めていきます。

学校に慣れてくれば、高専生活をともにする仲間もできてきます。部活動や学生寮での生活はかけがえのない仲間づくりの場となります。ですから、まず1年間、高専生活に慣れて高専生活を完走する地力を身につけてください。

2年生になれば4つの系への配属となり、海外研修も入ってくるし、企業のインターンシップも希望すれば3年生から参加することができます。「グローバル人材育成会」という200社をこえる会員企業を有する支援組織がバックアップしてくれます。進学も、秋田高専からの推薦で道が開かれます。

新入生の皆さんの健闘を期待します。

さて、本日ご列席の新入生の保護者の皆様、本日はまことにありがとうございます。

新入生諸君を今まで愛情をもって育てていただき、秋田工業高等専門学校に送り出していただきましたことに、心からの御礼を申し上げます。

秋田工業高等専門学校として、新入生をおあずかりするにあたりましては、我々教職員一同襟を正し、誠心誠意教育に邁進する所存です。

つきましては、皆様には本校の目指すところの教育理念にご理解を賜り、本校教育にお力添えをいただきたく存じます。新入生諸君の学びの道程を、今まで以上にあたたかく見守っていただき、彼らの「自立 挑戦 創造」の試みを応援していただきたく存じます。

ご列席の来賓の皆様。常日頃から本校の教育にご支援をいただき、まことにありがとうございます。

本年度も、ここに居並ぶ頼もしい新入生を迎え入れることができました。

皆様のご支援に改めて感謝申し上げますとともに、倍旧のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

新入生の皆さん。

皆さんは今日から秋田高専の学生です。グローバルエンジニアを目指す学びの日々が始まります。己を律して“自立”を目指し、秋田高専の学生である誇りを胸に高専生活の第一歩を踏み出してもらいたいと思います。秋田に秋田高専ありの気概をともにをもって進みましょう。

令和6年4月3日

秋田工業高等専門学校長 高橋雅之